

▽取組事例名

交通事故を減らすまちづくりプロジェクト
～産学官の連携による安全・安心なまちづくりを目指して～

▽取組期間

平成24年度～

▽取組概要

過去の交通事故データをもとに危険箇所を検証し、歩行者や自転車運転者の視点から危険箇所を認識できる町内の交通事故危険箇所マップを作成。

また、松前町交通安全推進協議会委員が「安全なまちづくり」についてワークショップを実施し、交通安全対策を様々な視点で捉え、町内外の多くの方々の意識啓発を図り、安全なまちづくりを支える地域コミュニティ力の強化を図る。

▽取組みの背景

平成20年4月に大型商業施設の出店以降、町内外からの車両流入の増加により、町内における交通事情は大きく変化した。また、国道と県道をつなぐ東西幹線道路の新設、さらに、この路線と商業施設をつなぐ南北幹線道路新設計画など、町内道路環境の進展に伴い、これまで以上に交通量が増加する事は必至である。

本町の人口10万人に対する本町の交通事故件数の割合は、平成22年に県下ワースト1となるなど、交通安全面における環境の整備が急務となり、特に、徒歩や自転車等を移動手段とする高齢者や児童・生徒に対する安全の確保が課題となった。

そこで、交通行政に携わる機関、NPO、及び地域住民が一体となって、交通弱者に配慮した交通安全対策に取り組み、誰もが安心して暮らせる安全なまちづくりを目指す。

▽取組みの狙い・具体的内容

(取組みの狙い)

行政主導の安全対策ではなく、高齢者や子ども、障がい者等の交通弱者に対して、優しい安全なまちづくりへの思いを共有し、その思いを広げていく事により、住民・来町者一人ひとりを交通安全の実践者とする。

(具体的内容)

平成24年度

・過去のデータを基に危険箇所の検証を行いマップを作成し、各戸配布や企業・施設への配布を行うほか、啓発イベントや小・中・高校での講習、高齢者サロンでの啓発活動に使用。

平成25年度

・ワークショップにおいて、交通安全を様々な視点で捉え、町内外の多くの人々の意識啓発につながるポスターを作成し、公共機関のみならず、各種企業や団体等、町内の各所に掲示することにより、広い範囲での啓発が実現できた。

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

住民の声を大事にし、住民が主体的に気持ちよく参加できる環境づくりに努めた。

ポスターの作成では、「まちのPR」要素を組み込むため、限られた日程、限られた予算での撮影が必要で、周囲の理解や協力が不可欠だった。結果的には、様々な分野の方が趣旨に賛同・協力してくれたおかげで、安全なまちづくりへの思いを共有し、広げていく人が増えた。

☆工夫した点

マップの作成では、学生に参加してもらい、自動車運転者だけでなく、高齢者や障がい者、子ども等の危険箇所の検証を行った。

ポスターの作成では、「交通安全啓発」という硬いイメージを払拭するため、協議会委員自らが笑顔で撮影に参加。さらには、「交通安全+まちのPR」を可視化できるものとするため、町の名物や特産品を使用したものを3種類作成し、それぞれに町長、副町長、住民が参加するなど、住民の関心を集めるものとした。

▽取り組みの効果

人口10万人に対する交通事故件数及び死傷者数ともに県内ワースト1であった本町が、5年ぶりに死亡事故ゼロを達成するとともに、交通死亡事故ゼロ連続500日を達成し、「交通安全対策優良市町表彰」を受賞した。

また、各種啓発イベントでは、地域、企業、学生、警察、行政など、様々な関係者が一緒になって交通安全を呼びかけることで一体的な発展へとつながった。特に、初めて学生が参加することにより活動の活性化が図られた。

マップやポスターといった成果品は、住民が主体となり、様々な関係者が一緒になって作り上げたものであるため、話題性、広がり、持続性があり、町内外の多くの方々の意識啓発につながった。

▽住民（職員）の反応・評価

交通事故危険箇所マップや理事者が参加したポスターが好評で、当初予定していた以上の問い合わせがあった。

☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

成果品の更なる活用方法を検討するワークショップの場を設定。松前町交通安全推進協議会が安全なまちづくり組織として結束し、さまざまな関係者と協働し、今後自立した団体として運営していく基盤ができるよう導く予定。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

住民自らが考え、行動する組織の確立のため、今後も幅広い啓発活動を展開したい。また、大学生や高校生にも参加してもらうことにより、若者の視点も取り入れた斬新なアイデアで、バイタリティある安全なまちづくりを行う。